# ′主要な経営指標等の推移

### 経済環境

2019年9月期のわが国経済は、輸出を中心に弱さが続いてい るものの、雇用情勢は着実に回復しており、個人消費の持ち直し の動きがみられる等、緩やかに回復しております。先行きについ ては、通商問題や中国経済の先行き、原油価格の上昇や金融資本 市場の変動に留意する必要がある等、不透明な状況での推移とな

りました。

当行の営業エリアである宮城県経済は、雇用や住宅投資、公共 投資は高水準を維持しているものの、生産が弱含みで推移してお り、回復の動きに足踏みがみられました。

#### 仙台銀行

#### ■業績

このような環境のもと、当行では、じもとホールディングスの 設立当初より「お客さまに喜ばれ、信頼され、『じもと』ととも に進化・発展する新たな金融グループを創設する」という経営理 念のもと、グループ役職員が一丸となって宮城と山形をつなぎ、 両県の経済交流の発展に貢献してまいりました。2018年4月か らスタートしたじもとグループの「中期経営計画」では、前中期 経営計画から更に一歩踏み込んだ「顧客本位の本業支援」と「統 合効果の発揮」をキーワードとし、本業支援を核とする持続可能 なビジネスモデルの確立と、グループ業務運営態勢の再構築によ る効率化・合理化を目指してまいります。2019年度は、中期経 営計画の2年目として、取組みの成果を具体的に示す年度と位置 づけており、安定的な収益基盤の確保に加え、ガバナンス態勢・

リスク管理態勢の強化を実現すべく、グループ一丸となって取り 組んでおります。

損益状況につきましては、経常収益は、貸出金利息が増加した ものの、有価証券利息配当金、生命保険販売手数料、株式等売却 益、国債等債券売却益が減少したことなどから、前年同期比6億 37百万円減少の75億51百万円となりました。一方、経常費用 は、営業経費、その他経常費用が減少したことなどから、前年同 期比3億51百万円減少の69億69百万円となりました。

その結果、経常利益は、前年同期比2億85百万円減少の5億 82百万円となりました。

また、中間純利益は、前年同期比3億1百万円減少の4億40 百万円となりました。

## 主要な経営指標等の推移(単体)

(単位:百万円)

決算年月		2017年9月期	2018年9月期	2019年9月期	2018年3月期	2019年3月期
経常収益		7,641	8,188	7,551	15,766	16,189
経常利益		817	867	582	1,845	1,007
中間(当期)純利益		821	741	440	1,536	840
資本金		22,485	22,485	22,485	22,485	22,485
発行済株式総数	普通株式	7,564 千株				
	第 I 種優先株式	20,000 千株				
純資産額		51,421	51,273	49,134	50,015	49,509
総資産額		1,114,210	1,103,359	1,113,781	1,098,786	1,110,279
預金残高		919,976	931,957	926,826	908,503	944,916
貸出金残高		677,194	714,664	736,988	702,577	734,267
有価証券残高		346,551	294,942	247,412	331,429	282,830
1株当たり純資産額		2,830.63 円	2,812.23 円	2,529.23 円	2,644.68 円	2,579.04 円
1株当たり中間(当期)純利益		107.40 円	97.99 円	57.98 円	200.77 円	111.08 円
潜在株式調整後1株当たり中間(当期) 純利益		43.90 円	39.20 円	22.92 円	82.13 円	44.44 円
1株当たり配当額	普通株式	17.87 円	19.86 円	21.84 円	35.75 円	39.72 円
	第I種優先株式	0.45 円	0.00 円	0.07 円	0.90 円	0.00 円
単体自己資本比率(国内基準)		9.46 %	8.99 %	8.59 %	9.05 %	8.83 %
従業員数 (外、平均臨時従業員数)		717 人 (286 人)	757 人 (271 人)	756 人 (248 人)	698 人 (291 人)	744 人 (269 人)

<sup>(</sup>注) 1. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。 2. 単体自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく2006年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は国内基準を採用しております。